

# 英語スライド作成法の基礎について

JSRT国際戦略委員  
小林 正和

日本放射線技術学会総会学術大会における英語発表等に抄録が採択された後、各発表者は英語スライドを準備しなければならない。本セミナー内では、英語スライド作成法の基礎を筆者自身の経験を踏まえて解説した。このスライド作成は、英語に限らず日本語で学会発表をする場合も、該当学会の規定に沿って観衆に分かりやすく、発表者の主張が伝わるように工夫する必要がある。そのため、全体的なスライド作成の注意点として以下の7点を挙げる。

1. フォントの種類とサイズに関して、フォントの種類はArial, CalibriやTahoma等の使用を薦めるが、基本的には該当学会の規定に沿って作成してもらいたい。また、フォントの大きさに関して、各スライドのタイトルは28フォント以上、発表内容の文章は24フォント以上を心がけて、観衆者が読みやすいような工夫をする必要がある。
2. 発表内容の箇条書きに関して、発表スライドの内容を可能な限り箇条書きにして、短い発表時間内に観衆に内容を理解してもらう工夫が必要である。日本人は長文の英文をスライドに記載してその英文を見ながら説明することが多く、スライド枚数が増える傾向がある。それゆえに、1スライドを表示している時間が短くなってしまい、観衆が英文を読み切れないことが多いようだ。そこで、重要ポイントのみを箇条書きにして、その説明を口頭で行えるように、発表の予行練習に十分な時間をかけて説明文を暗記する必要がある。
3. 発表内容の主張点の強調に関して、主張は各スライドにおいて1, 2個程度とし、それを可能な限り短く、各スライドの発表の前半部に述べる工夫をすることで、観衆により内容を理解してもらえやすくなる可能性が高くなると期待している。
4. 背景色と文字色の組み合わせは色盲障害者等を考慮する必要がある。例えば、背景色が青と文字色が赤の組み合わせや、背景色が白で文字色が黒と赤の組み合わせでは、障害者とその色の違いを認識できないため、色使いに配慮すべきである。
5. 有効数字に関して、外国人の研究者の中には、数学が苦手な有効数字が多くなると発表内容を理解できなくなる観衆者がいるようであるため、例えば小数点1位までに留めるなど、有効数字は可能な限り少なくする工夫が必要である。
6. アニメーションに関して、近年のMicrosoft OfficeのPowerpoint等のバージョンアップにより様々なアニメーション

ションを使えるようになったが、筆者の経験上、外国人の研究者はアニメーションを多用していないような気がする。筆者も同じく、アニメーションは発表内で重要な箇所だけに限定したほうが良いと思っている。なぜなら、短い発表時間内にアニメーションを多用するとその動きだけに目が集中し、重要な発表内容が理解できない可能性があるからである。

7. 抄録の利用に関して、英語スライドを作成時には、学会に提出した抄録が手元にある状態である。その抄録の内容に肉付けしてスライドを作成していくのが初心者にとって簡単に英語スライドを作成できる方法だと思っている。したがって、抄録作成時にしっかりと英文や内容の抄録を作成しておくことが、英語スライドを作成するときに非常に役立つ。

次に、英語スライドの構成(Fig.1)に関して説明する。これは日本語によるスライド構成と基本的には同じであるが、発表内容をゆっくりと話すために、スライド枚数は可能な限り少なくする必要があらわれる。その構成方法に関して、筆者の留学の経験により実践しているのは、Titleスライドの後にMajor pointsあるいはOutlineというスライドを作成し、発表内の重要点や結論を話すことで、観衆の記憶に留めてもらいたい内容を発表冒頭から伝えることができる。その後、Introductionを観衆の知識レベルに合わせて述べる。Purposeは発表内容において質問を提唱する箇所であり、可能な限り短い一文にする。その回答は抄録を参考にして、Major points, Results & discussion, Conclusionの3箇所に記載し強調する。Results & discussionスライドの作成法は諸説あると思うが、筆者は結果を記載したスライド内で、その結果に関する考察も同時に述べるようにしている。

さらに、各スライドの作成法に関して、重要なポイントのみを詳細に述べていく。Titleスライドは、抄録に記載した

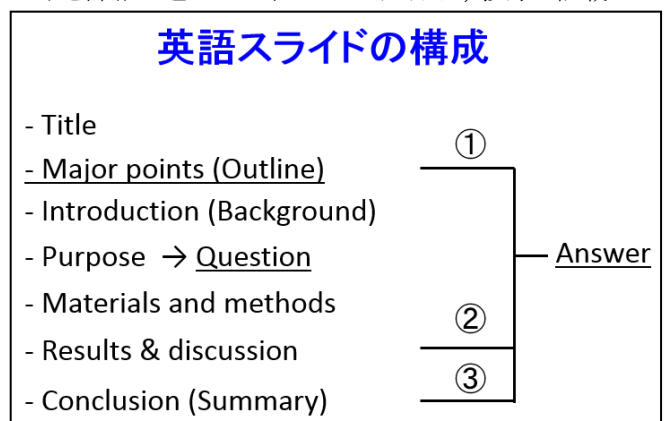


Fig.1 英語スライドの構成

**Introduction → Message**  
**Does dual-source CT improve image quality and radiation dose ?**

初心者は日本人研究者が書いた英語抄録や論文を参考

- PubMedというウェブサイトで見つけ
- 既知な知見と未知な知見を上記の論文を参考に加筆

既知な知見 → 抄録と英語論文を参考  
 → Dual-source CT shorten examination time.

未知な知見  
 → However, ... image quality and radiation dose.

Fig.2 Introductionスライド

タイトルをそのまま引用することになる。上記に記載した Major pointsを加えた後、Introductionスライドを加える (Fig.2)。そのスライドのタイトルは「Introduction」と記載せずに観衆へのメッセージとなる1文をタイトルにすべきである。例えば、「Does dual-source CT improve image quality and radiation dose」と背景のタイトルに付けることで一番重要な内容は観衆の目に留まるとともに、発表者もこの文章を口頭で忘れずに強調して発表できる。また、背景の中に既知な知見と未知な知見を記載するが、その内容や英語の文章の記載に関して、筆者のお勧めは日本人研究者が書いている英語抄録や国際論文誌を参考にすることである。その理由は、日本人が使っている文法や英単語が中学校や高等学校で習ったものを使っているため、馴染みややすく理解しやすいとともに、実際の発表時にも記憶に残りやすいためである。そのため、PubMedというウェブサイトにおいて、発表内容に類似した他の日本人研究者の論文を検索し、その論文の内容を参考にして、作成済みの抄録に肉付けしながらスライドを作成するのが初心者にとっては最も簡単に英語スライドを作成できる方法だと思っている。

Materials & methodsのスライド作成に関するポイントは、研究で使用した器具や被検者等の要点のみ箇条書きにする。また、使用した装置、撮像法、画像再構成法、解析法等を要点のみグラフやテーブルにまとめるのもいいと思う。

英語スライドの作成において、最も力を入れるべき箇所はResultsスライドの作成である。特に、観衆に対して分かりやすく、かつ見やすいグラフとテーブルを作るのが非常に重要である。グラフは通常、散布図や棒グラフが多く使用されるが、発表者が得られた結果を強調するために、何のグラフの種類が最適かを考えて作成するべきである。また、凡例、色の使い方、軸の有効数字や軸タイトルの名称や単位、縦軸と横軸のフォントの種類や大きさ等にも注意する必要がある。一度に多くの凡例の表示は、様々な色も

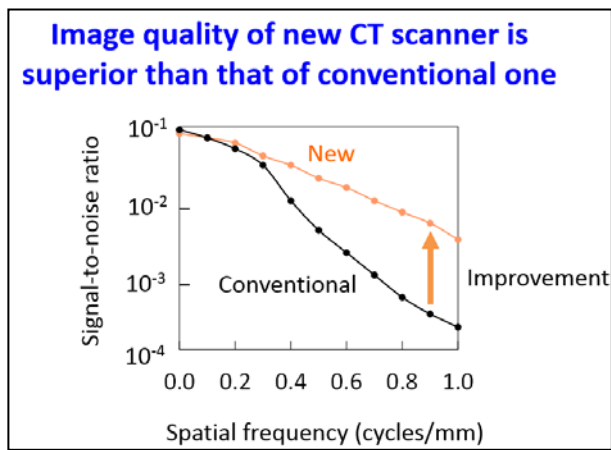


Fig.3 散布図

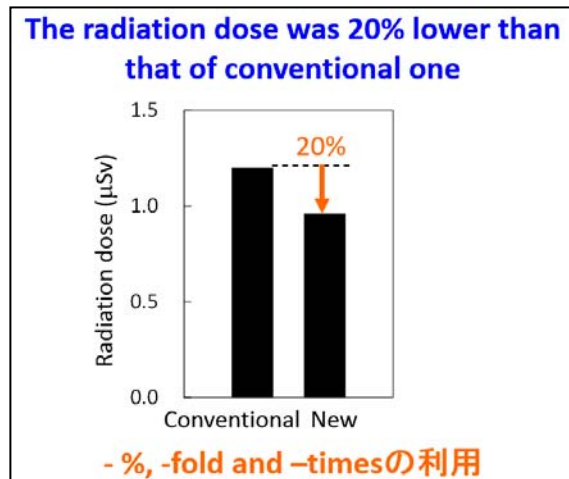


Fig.4 棒グラフ

使わないといけないため、観衆がその違いを把握しにくくなる。そこで、共同研究者に作成したスライドを何度も確認してもらい、発表に不必要な凡例を可能な限り減らす努力をするべきである。また、Fig.3の散布図を使用するときには、1スライドに1、2個のグラフのみを使い重要な点は色でアピールするのも一案である。Fig.4の棒グラフ使用時は、グラフを縦長にして各棒グラフの違いを%, foldやtimesを使って強調すべきである。その他の注意点は上記に既に記載している通りである。また、テーブルを使用する場合には、本当に数値を使って表示すべきかよく考えてから使ってほしい。数値の羅列は見えにくく、フォントサイズが小さくなりがちなので、必要な数値だけを記載するとともに、強調点の色付けする工夫が必要である。

最後に、これまで述べてきた筆者の英語スライド作成法は、日本放射線技術学会の国際化のために尽力している先生方が作成したスライド(Tips for Better Presentation in English, To make a good academic presentation)を参考に、筆者の経験を加えたものとなっている。各発表者の考え方の違いから、一概にこのスライド作成法が皆様の発表に最も適していると言うことは難しいが、今後の研究発表の参考になれば幸いである。